

河環研だより

No. 1

'05.10月1日

編集・発行 岐阜県河川環境研究所 〒501-6021 各務原市川島笠田町 TEL (0586)89-6351(代)

組織再編により『河川環境研究所』へ



日頃より試験研究の推進につきましては、格段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

近年、河川におけるアユ冷水病のまん延による被害、外来魚やカワウによる食害等の問題は、内水面漁業に深刻な影響を与えております。さらに養殖業においても、魚病対策の強化、消費流通の促進、安全な水産物の供給など多くの課題を抱えております。

これらの多面的な諸問題に対する取り組みが漁業関係者から強く要望されており、即効的かつ実効的な解決策の提示に向けて緊急に対応する必要があります。

当研究所は、従来の淡水魚研究所が本年4月の組織改編に伴い、各務原市に本所を新築、名称も河川環境研究所と変更され、従来の下呂市萩原町の研究所施設を下呂支所として存続しております。

再編後は、「人と魚が共存する豊かな水域環境の創出と水産業の振興」を基本目標に、従来の研究所の機能をさらに充実し、社会的要請が高く、かつ緊急的な課題から優先的に試験研究に取り組んでいくことにしています。また、これらの試験研究から得られた成果をもとに技術普及に努めるとともに、希少魚を中心とした生態系の保全に係る啓発普及にも積極的に取り組んでおります。

今後とも、皆様方のご意見を拝聴し、より効果の上がる試験研究を進めて参りますので、引き続きご支援ご協力をお願いいたします。

岐阜県河川環境研究所 所長 児玉文夫

河川環境研究所がオープン!!

旧の淡水魚研究所は4月1日より発展・改組され、新たに河川環境研究所として各務原市川島笠田町の河川環境楽園内に移転し、下呂市の施設は、下呂支所として生まれ変わりました。4月25日には隣接している国土交通省所管の水辺共生体験館との合同開所式が約100名の来賓出席のもと盛大に開催されました。



完成した研究所(正面)



開所式でのテープカット



開所式当日古田知事視察

各務原市の本所は、1課2部(12人)、下呂支所(8人)は2担当で構成されることになりました。また、職員も4人増員され、組織体制が強化されました。

今後も、県内外の研究施設、関係団体、NPO法人等を始め、河川環境楽園内の各施設と連携協力することにより、「人と魚が共存する豊かな水域環境の創出と水産業の振興」に向けた総合的な研究拠点、さらには国内はもとより国際的な拠点を目指します。

本所と支所で行う主な業務（研究）内容は、

本 所

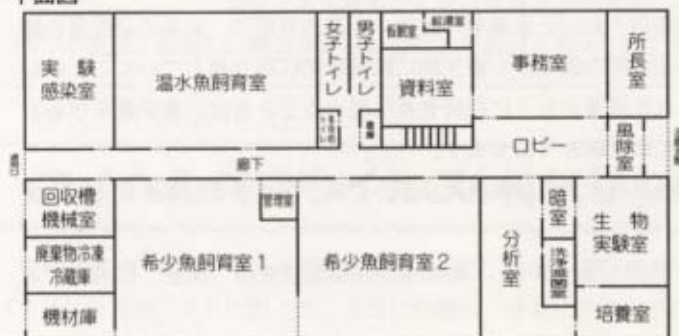
- 生態環境部：希少水生生物（タナゴ類・ウシモツゴ等）の保護・繁殖、アユ資源増大対策、ブルーギル食害等影響調査研究、魚類の生態環境研究、NPOとの協働に関すること（温水魚）
- 資源増殖部：温水性漁業資源の増殖研究、アユの遺伝的多様性保全及び資源の増大に関すること、温水性魚類の病害研究、魚病診断、研究所の成果の普及、技術指導

下呂支所

- 試験研究担当：希少水生生物（カジカ類・アジメドジョウ）の保護・繁殖、マス類の優良系統の保存、アマゴ（サツキマス）の保全と増殖に関する研究、冷水性魚類の病害研究、魚病診断、全雌アユの普及支援研究、研究所の成果の普及、技術指導

本所の建物は一部2階建ての平屋作りで、所内は図に示すような設備を備えた配置になっています。飼育室等は病気予防等のため入室は遠慮していただいておりますが、廊下からは見学していただくことができますので、是非一度ご来所ください（土・日曜日、祝日、年末年始は休み）。

平面図



位置図



生物実験室



分析室



希少魚飼育室1



希少魚飼育室2



温水魚飼育室



実験感染室

特報：新しい魚卵消毒剤「パイセス」発売開始

平成15年7月に薬事法が一部改正され、いわゆる未承認医薬品（国の承認を受けていない薬剤で医薬品として使用されるもの、例えばマラカイトグリーン、ホルマリンなど）が2年間の猶予期間（今年の7月末）を過ぎて、全ての養殖水産動物に使用できなくなりました。この改正により最も深刻な問題はマラカイトグリーンの使用によるマス類等の受精卵に対する水カビ防除が出来なくなることでした。しかし、代替医薬品として欧米のサケ科魚類のふ化場で使用が認められていた商品名「パイセス」（成分：本品1L中、プロノポール500g含有、販売：ノバルティス アニマルヘルス社）が2月に我が国への輸入承認がなされ、7月下旬から国内で販売されるようになりました。パイセスは合成抗菌性保存剤プロノポールを有効成分とする無色から淡黄色の透明な溶液です。

1L入りのボトル（専用計量カップ付）で販売され、県内では㈱アスコを通じて購入することが出来ます。販売価格は1Lボトル1本あたり7,250円（税抜き）と聞いています。

購入先：㈱アスコ岐阜営業所 TEL 058-271-9933

㈱アスコ恵那営業所 TEL 0573-26-0214

○使用方法（概略）

受精24時間後から発眼卵として検卵するまでの毎日、飼育水10L当たりパイセス1mLを均一に混ぜ（プロノポールとして50mg/L）、1日1回30分間薬浴します。実際の使用方法としては、今までマラカイトグリーンで行われていたのと同じ「流下式（滴下式）」と「循環式」があります。両方の方法とも薬液がふ化槽の中で均一に混じるまで待ち、それから実際の薬浴時間の30分間薬液を流下させるか、循環させます。そして30分以内にふ化槽内の薬液を用水で完全に入れ替えます。

具体的な使用方法については、9月21、22、26日に下呂市の下呂支所で講習会を開催し、合計32名の方に出席していただきました。なお、当日欠席された方のうち卵を生産されている方には資料を郵送しました。将来、卵生産を予定している方等はご連絡ください。また、使用方法等について疑問等がある方は電話、または来所にてご相談ください。

新人紹介

各務原市の本所に新しく仲間3名が着任しました。



今泉 茂巳

今年の4月に保健環境研究所から異動してきました。保健環境研究所では、主に地下水中の汚染物質の分析、雨が湖沼の水質に及ぼす影響の調査等を行っていました。ここでは、ウシモツゴやタナゴ類といった希少魚の保全についてのテーマに取り組んでいます。これまで仕事であまり生物を扱ったことがなかったので、魚の調査の仕方や保護した魚の育て方などを周りの方に助けていただきながらやっています。今後は、魚を対象にしながら保健環境研究所で取得した分析技術を活かした研究ができればと思っています。



大原 健一

4月より、生態環境部に配属となりました大原健一です。私の研究略歴を簡単に紹介すると、大学・大学院在籍中は、魚類の遺伝・育種学的研究に従事し、集団遺伝学や染色体操作へのDNAマーカーの応用について学んできました。その後、絶滅危惧種の遺伝的多様性の保全について取り組んできました。河川環境研究所においても、「モデル魚種を中心とした希少淡水魚の保護、繁殖に関する研究 希少水生生物の生息状況の実態把握」という研究を中心として、淡水魚の生息、繁殖に最適な環境を把握、遺伝的な解析から、河川等の工事指針や放流指針の策定に向けたデータの収集と解析を行っています。まだまだ、勉強不足な点多々あると思いますが、よろしくお願い致します。



岸 大助

4月に河川環境研究所職員として採用され資源増殖部に配属されました岸大助です。現在、長良川で漁獲されるアユの系統調査に従事しています。アユを研究対象とするのは初めてのことであり、多々ご指導を仰ぐことになると思いますが、よろしくお願い致します。大学院では、水温が溪流の生物の生息密度や採餌活性に及ぼす影響について、野外調査と水槽実験により研究を行い、魚類や底生動物の分類や採餌実験の手法、藻類のクロロフィル量や光合成活性の測定手法、水温・流量・瀬淵構造・河床構造など物理環境要因の測定方法を習得しました。これらの経験を研究所での業務に活用し、微力ながらお役に立てればと考えています。

コイヘルペスウイルス(KHV)病についてのお願い

KHV病は、県内で9月末現在27市町の河川、水路、個人池等112箇所が発生が確認されています。今年は2月に下呂市、7月に郡上市、8月に飛騨市、9月に中津川市の個人池で発生が確認されています。今後は秋冬の水温低下に伴い新たに発生する可能性は少ないと思いますが、死亡等異常なコイを発見した場合には、直ちに県庁水産課、河川環境研究所、市町村等へ連絡をお願いします。通報や情報が遅れると、KHV病のまん延を拡大させることとなるので、皆さまの協力が必要です。よろしくお願い致します。

連絡先：県庁水産課 TEL 058-272-1111 (内線2894)
 河川環境研究所 TEL 0586-89-6351 (内線107)
 河川環境研究所下呂支所 TEL 0576-52-3111 (内線405)

● 編集後記 ●

- ・昨年度までの淡水魚研究所の広報誌「淡水研だより」が、「河環研だより」としてリニューアルしました。
- ・新人紹介コーナーを設けました。その都度ご紹介します。
- ・研究所が各務原市と下呂市に分かれ、不慣れところはあるものの、きめ細かな研究や、迅速な対応が出来るようになったと思っています。今後も希少魚やアユを中心とした研究にこれまで以上に取り組んできたいと思っています。